

2. 試合について

- (1) **会場に着いたら所定の場所で更衣をし、登録された選手及び監督が試合開始予定時刻の30分前から15分前の間に(例えば、9時開始なら、8時30分から8時45分までの間)出席を届け、待機すること。時間に遅れたり、棄権はしないようにすること。万一棄権する場合は、その学校の責任者がその旨を本部に届けること。**
- (2) **試合進行はオーダーオブプレーで行う。控えの学校は、必ずコートそばで待機をし、試合が終われば速やかにコートに入り、オーダー交換の後、試合を行うこと。速やかにコートに入らない場合は失格とするので、各校とも掲示等には充分注意しておくこと。(『速やかに』とは、最大3分である)**
- (3) 試合はすべてセルフジャッジで行うものとし、各試合会場にはレフェリーまたはロービングアンパイアが設置されている。セルフジャッジによる試合方法およびレフェリーまたはロービングアンパイアの権限について、「アンパイアのつかない試合規則」をよく読んでおくこと。

※補足1:「アンパイアのつかない試合規則」の「規則2-7. 妨害」の項の「第2サーブを行うまでに」とは、第2サーブのレディポジションについてから第2サーブを打つまでの間のことである。

※補足2:「アンパイアのつかない試合規則」の「規則2-8. 妨害(1)」の項については、今大会では適用しないものとする。
- (4) 試合前のウォーミングアップはサーブ4本のみを厳守すること。
- (5) 試合終了後、**勝者は速やかに本部に結果を報告すること。結果報告は必ず各試合毎に行い、速やかに結果報告がない場合は、勝者も失格とする。**
- (6) 試合球は、全対戦終了後、敗者がセットボールを受け取り、勝者がニューボールを受け取って次の対戦に使用すること。
- (7) **選手は、エンドチェンジの際にスコアボードのゲームカウントを正しく変更すること。**

団体戦の競技方法や選手変更等について

- (A) トーナメント戦を行い、全国選抜予選においては複2単3の試合の結果、3勝以上したチームを勝ちとし、インターハイ予選(総体)においては、複1単2の試合の結果、2勝以上したチームを勝ちとする。
- (B) 全国選抜予選およびインターハイ予選(総体)においては、同一選手が単複を兼ねて出場することはできない。
- (C) 提出した選手順位表の変更および選手の変更は認めない。ただし、傷病等の事故があった場合には、その代替を1名を限度として認めるが、その代替選手の順位は最下位を原則とする。「選手変更願」の提出は、試合当日のエントリー時までとする。

(D) 団体の部での監督変更および選手の欠席の取り扱い等について

- (a)団体の部の競技実施に当たっては、登録された監督の引率を必要とする。都合により監督を変更する場合は、その都度競技本部に「監督変更届」を提出しなければならない。
- (b)監督は、競技開始および競技中には必ず部員の指導・助言および管理に当たらなければならない。監督不在のときは当該校の試合を没収する。
- (c)競技当日においては、指定された時間に、登録された監督および選手全員が、本部に出席を届けなければならない。欠席の選手については、監督がその理由を本部に届け、当該選手の大会期間中の選手登録を抹消する。ただし、欠席の理由が忌引・出席停止・非常変災による場合はこの限りではないが、監督による「選手変更届」が未提出の場合に限り有効である。
- (d)競技開始に当たっては、両校の監督・選手全員が整列し、「選手オーダー用紙」を交換し、選手紹介やあいさつをする。また競技終了後も、両校の監督・選手全員が整列し、結果を確認し、お互いの健闘を讃えること。なお、この際監督が不在であれば(b)の適用を受け、選手が欠けていれば(c)の適用を受ける。

※ 京都府高体連テニス部主催のすべての個人戦の第1次予選(京都市部・両丹支部)において、**ノーアドバンテージ・スコアリング方式**を採用する。